

J F A 8人制サッカー競技規則

ルールの基本的考え方

審判1人制を採用することにより、選手のフェアプレー精神を養う。

審判員を信頼し、判定に対して不平不満を表さない。

審判員の決定に従いつつ、ラインアウトについてはプレーヤーが申告するフェアな姿勢を養う。

指導者や保護者など、大人のフェアプレー精神も養う。

審判員の試合運営上の留意点（共通理解）

1人制であることから、よく動き、よい位置取りを心がけて説得力ある判定を目指す。オフサイドの判定については、主審の見解で明確な場合のみを罰し、原則的に「疑わしきは罰せず」の考え方をとる。

スロインについては、ファールスローなどの違反を探すのではなく、明らかな場合のみを罰し指導も行う。

フェアプレーの精神、よいマナーを養う目的から判定に対してや他の人に対する言葉にも注意を払い指導をしていく。

ルールについて：8人制の主旨を徹底させるためにのみ必要な変更を行う

第1条 競技のフィールド

全日本少年サッカー大会に準じる。ただし、フィールドの大きさは通常の半分の大きさを推奨する。

マークなどの長さ、ゴールの大きさは次のとおり

- ・ペナルティエリアの縦：12 m
- ・ペナルティマーク：8 m
- ・ペナルティアークの半径：7 m
- ・ゴールエリアの縦：4 m
- ・センターサークルの半径：7 m
- ・ゴールの大きさ：5 m × 2 m

第2条 ボール

少年用の4号球

第3条 競技者の数

8人（内1人はゴールキーパー）とする。

交代要員の数は競技会規定で定める。

交代は「自由な交代」とする。

第4条 競技者の用具

変更なし

第5条 主審

主審1人制とする。

予備審判員1名を指名する。(記録, 交代管理, 3分間計時, 主審負傷の場合交代)

第6条 副審

副審を配置しない。

第7条 試合時間

競技会規定により定める。

延長は3分ハーフ(Vゴールなし)

P K方式は3人ずつ

第8条～第11条 変更なし

第12条 反則と不正行為

警告は3分間一時退場(予備審判ベンチ)

- ・前半での残り時間は後半へ持ち越し
- ・後半での残り時間は延長がある場合のみ持ち越し

退場は退場処分に加えて相手チームにP Kを与える(インプレー, アウトオブプレーに係らず)

- ・退場の場合, 該当チームは交代要員の中から競技者を補充する。
- ・再開はP Kの結果による(キックオフ, G K, C K, プレー続行)

【監督の3分間一時退席】

監督を含めたベンチ役員が判定に対して異議を示し, 主審から一度注意を受けた後に, 再度監督あるいはベンチ役員が異議を示した時は, 主審の判断により監督を3分間の一時退席とする。(予備審判員席の横に着席)

監督が一時退席している間はそのチームのコーチングを不可とする。

第13条 フリーキック

相手競技者は7m以上ボールから離れる。

第14条～第16条 変更なし

第17条 コーナーキック

ボールがインプレーになるまで相手競技者は7m以上離れる。

今後の検討事項(技術委員会からの提案)

「グリーンカード(誉める)」制度の導入について

- ・プレーヤーの模範となる態度, 行動を「誉める」という姿勢で積極的に評価する制度
- ・この制度を導入した場合, イエロー/レッドカードの懲戒罰のカードとは違うものであることを周知していく必要がある。

・制度の導入, 評価の基準等については, 技術委員会, 審判委員会にて今後の検討予定登録人数による, ピリオド制(3回)の導入について

チームに係る周囲の保護者からの異議に対するコントロールの責任先について